

校長室発信 ～「今日の一言」がつくる言語活動の日常化～

松阪市立三雲中学校 ICT支援員 加藤 彩葉
katou@ews.co.jp

松阪市立三雲中学校 学校長 川田 公也

キーワード：電子黒板、校内ネットワーク、学校組織、ICT支援員

1. 従来の課題

本中学校校区は幼稚園2園、小学校5校からなる。農業や漁業中心の地域から、国道線付近の商業・工業中心の地域と広範囲にわたり、生徒の生活環境も様々である。学年は各4クラス、計447人で市内では中規模校にあたる。

一昨年度より総務省「フューチャースクール推進事業」、文部科学省「学びのイノベーション事業」の指定を受けている。全校生徒、一人ひとりにタブレット端末が貸与され、各教室には、教師用ノートPC、電子黒板と実物投影機が設置された(写真1、写真2)。運動場、体育館を含めた校内全体には無線LANも構築された。これらのICT機器や環境を活かして「協働学習」と「ICT機器の利活用」について実践と検証を行っている。

3年目の本年度は、取り組みの1つとして校長室から「今日の一言」の発信を行い、機器の活用の日常化に取り組んでいる。



写真1 各教室の機器



写真2 タブレット端末

2. 目的・目標

(1) 語彙力の向上、学び

本実践のねらいは朝の教室、各教室に整備されている電子黒板に「今日の一言」としてことわざや四字熟語を配信する。「今日の一言」にはその言葉の意味も記載されているため、その場で意味も理解できる。毎日続けることで、一か月で20前後もの言葉を学ぶ機会となる。毎日、生徒がこれを見ることで語彙力を高めたい。

(2) 機器操作の必然性と授業準備の軽減

「朝の一言」は朝の学活で取り上げることが目的でない。担任によって、取り扱って良いし、別の話題を取り上げて良い。ここには縛りが無い。しかし、いずれの場合でも、電子黒板には「今日の一言」を掲示して生徒の目に触れるようにする。つまり、毎朝各教室では「今日の一言」を受け取るために電子黒板とパソコンの電源を入れる必要はある。このことで、毎朝、機器に触れる機会が作られる。また、そのまま電子黒板をつけておくことによって、1限目の授業の機器準備

の軽減をはかることができる。このことで機器活用の日常化につなげたい。

3. 実践内容

(1) 環境整備・準備

校内には緊急災害速報(EWS緊急表示システム)のサーバが設置されており、災害時や避難訓練時にはそのシステムを活用し、広報することができる。サーバでキャッチした情報を自動的に全教室の電子黒板に強制的に表示されることができ、校長室のパソコンからも操作(管理)できるようになっている。

このシステムを活用し、毎朝校長室から「今日の一言」の画面を発信している(写真3)。

筆者は環境整備を支援してきた。毎月末に次月の準備を行っている。その準備は、パソコンのペイントソフトで「今日の一言」の画像を一枚一枚作成し、画像はサーバに登録する。その登録した情報をファイル化し、各教室のパソコンにコピーする。



写真3 校長室から発信する様子

(2) 校内ネットワーク環境の有効活用

本校では、各教室に整備されている電子黒板の積極的な活用を授業はもちろんであるが、授業以外の活用にも取り組んでいる。例えば、帰りの学活時、「今日の振り返り」として生徒がノートを画面に写し、一日の学習を全体で振り返っている。また、生徒会選挙における立ち会い演説会では、電子黒板に候補者名やマニフェストを表示している。さらに、電子黒板を授業以外の活用として、いつでもどこでも情報を伝えるサイネージとしての役割を踏まえた活用も模索している。

そこで、これらの電子黒板に校内ネットワークを活用できないかと考えた。本校には緊急災害速報(EWS緊急表示システム(図1))が整備されている。

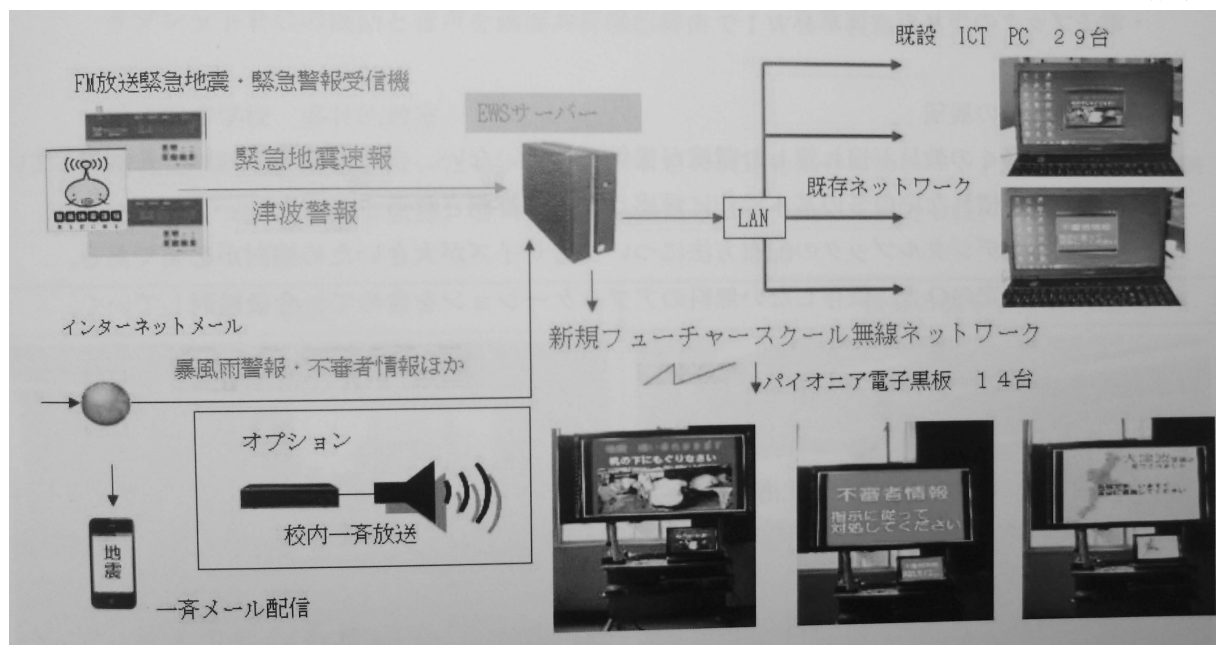


図1 緊急表示システム概要

このシステムを緊急時の活用だけでなく、日常的に使える方法として、朝の一言を電子黒板に配信することとした。また、これらの操作になれておくことで、緊急時の対応もスムーズに操作ができると考えた。

（3）職員研修とユニバーサルデザイン

埼玉県が発表している「小・中・高等学校及び特別支援学校におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践に関する調査研究（2012）」では、現在教室には学習面や行動面で著しい困難を示す生徒が6.5%いると報告されている。そのため、電子黒板に表示される画面情報を一人一人の生徒にわかりやすく見せるためにはユニバーサルデザインを取り入れることは重要である。

そこで電子黒板に映すための工夫として、色や大きさを検討し画面を作成した。（図2）中学校の現場ではそれぞれの専門性をもたれた先生方が多くみえるため、特別支援の教員にアドバイスをいただき文字の色や大きさを考慮した画面作りを行った。

また、これらの教材作りに関わる資料は、他の授業や学習活動でも活用できることから全職員に配布した。

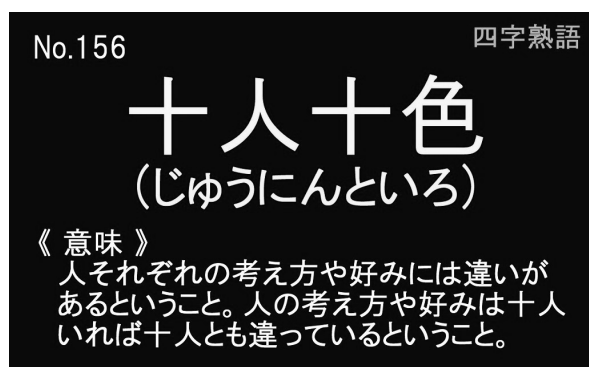


図2 表示画面

4. 成果

本実践を行って、教員は、「生徒は四字熟語やことわざを意識するようになり、語彙力は増えたと感じる」とコメントをしている。また、実践を毎日行うことで、生徒は朝の時間の活用として位置づけることができた。

教員にとっても、定期的な機器の使用場面が増えたことで、活用の日常化につながった。以前はあまり機器の活用に苦手意識を持っていた教員も、他にもっと使いやすい使い方はないか等を模索しはじめている。

教員とICT支援員の関係も変化した。ICT機器の稼働率が上がることによって、サポートに入る機会も増えた。このことで、教員とのコミュニケーションが増え、関係も深まった。

5. 今後に向けて

「今日の一言」は各教室の電子黒板に表示しているが、今後は一人ひとりタブレット端末上で確認できるようにし、学習記録として蓄積して活用していきたいと考えている。

現在は3学年とも同じ「今日の一言」を配信しているが、3年生が卒業間近ということもあり、3月からは1・2年生には通常通りの「今日の一言」を、3年生には卒業をテーマにした「今日の一言」を配信したいと学校長から依頼を受けている。そのため、今までとはまた違った2パターンに対応する整備を行っていく必要がある。

このような取り組みを試行しながら、校内ネットワークの活用を、教室のみの活用ではなく、学年間、異学年の交流にも広げていきたい。

また、本実践のように、校内全てのネットワークを踏まえた実践としては防災についても進めていく。本校が立地している場所は海拔1mである。東南海地震を想定したハザードマップでも津波被害が想定されている地域である。このシステムを有効的に活用し防災意識を高め、緊急災害発生時の行動に繋げていく。